



● CIRは輝いているか？

—— 秋田県企画振興部国際課

はじめに

秋田県では2022年度に計143名をJETプログラムで招致し、国際交流員（CIR）は全県で6名任用されました。国際課では、英語圏（1989年～）、ロシア（1994年～）、中国（1997年～）、韓国（2001年～）の4か国からCIRを招致しています。ただし、中国については2020年度以降コロナ禍により招致が実現していないため、記事掲載時には来日できていることを願います。

CIRの活動

当課におけるCIRの業務は大きく分けて3つです。

1つ目は翻訳・通訳業務です。庁内各課から文書の翻訳依頼が届くほか、徐々に増えつつある各国大使や領事の表敬訪問の際に通訳として同席します。CIRの国籍によって依頼数に差が出てしまいましたが、年間を通して切れ目なく行っている業務です。

2つ目は国際理解講座の開催です。県が生涯学習の一環として実施している「あきた県庁出前講座」のメニューに含まれており、依頼があった市町村や学校へCIRを派遣しています。講座の中では自国の文化や観光スポットを紹介するだけでなく、参加者とゲームをしたり、実際に外国語で会話をしたりと、参加者の笑顔を直接見ることが出来ます。

3つ目は（公財）秋田県国際交流協会への従事です。秋田県国際交流協会では毎週木曜午後をインターナショナルデーとしており、協会を訪れた一般の方とCIRが触れ合う機会を設けています。コロナ禍で長期間開催できない時期がありましたが、2022年度から再開しており、再開を待っていた方、常連になった方もいらっしゃいます。

多種多様な翻訳・通訳業務

アメリカ出身で4年目のヘンネン・アレックスさんは

翻訳・通訳業務で輝いています。実際にあった英訳依頼を挙げると、「新型コロナウイルス感染症の療養証明書」「世界洋上風力サミットでのプレゼンテーション資料」「ほ場整備事業実施に伴い未相続土地解消のために海外居住の相続人へ送る手紙」など、多種多様かつ専門的な内容も少なくありません。通訳については、「各国大使等の知事表敬訪問」「中南米日系社会と国内自治体との連携促進事業（在アルゼンチン秋田県人会の若手会員対象）」「日本の正月の伝統・作法」「国際クルーズ船歓迎式典」など、まさに世界各国と秋田の架け橋となっています。アレックスさんはこの業務が一番好きだということですが、当初は内容より「秋田弁」に苦勞したとのことでした。



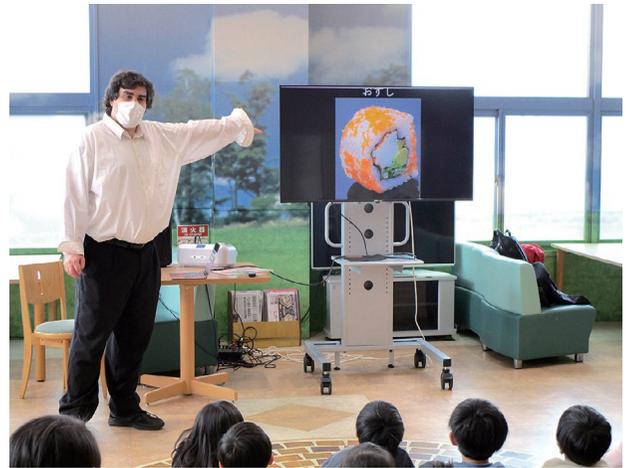
在札幌米総領事館首席領事（手前）による知事表敬通訳 佐竹知事（右）の通訳を務めるアレックスさん（左）

リピーター獲得！国際理解講座

ロシア出身で4年目のシャバラ・エカテリーナさんと韓国出身で2022年4月に来日したハム・ジヨンさんは国際理解講座で輝いています。講座に限るとアメリカよりもロシア、韓国の方が依頼が多い傾向にあります。依頼する団体・内容もさまざま、「市町村が行う生涯学習講座」「園児向け英会話教室」「小、中、高、特別支援学校での国際教育」など、幅広い世代に向けて自国の文



ロシアの正月遊びについて紹介するエカテリーナさん



日本とアメリカの違いを園児に紹介するアレックスさん



「まなぐ凧」づくりに挑戦するエカテリーナさん
「まなぐ」は秋田弁で「眼」



伝統衣装を身にまとい韓国を紹介するジヨンさん

化などを紹介するほか、地元の皆さんとの文化体験を行うこともあります。その甲斐あって毎年依頼をいただく団体も一定数あり、「毎年楽しみにしています」という声をいただきます。今後もリピーターを大切にしつつ、新規獲得も目指したいと思います。

その他にも、国際交流協会が主催するフェスティバルにブースを出展したり、「インターナショナルカフェ」と称したイベントでオンライン料理教室を開催したりと、県民の国際理解促進への一翼を担っています。

CIR が輝くために

アレックスさんとエカテリーナさんは今年の夏から最後の5年目がスタートします。ジヨンさんは自分の夢を叶えるため、惜しまれつつも1年で帰国しました。CIRにとってJETプログラムはキャリアの中の一部であり、ゴールではありません。JETとして秋田にいる期間は長くても5年ですが、その間にCIRたちは十分に輝いているでしょうか？もちろん当人たちは仕事を、また秋田を楽しんでいます。すなわちこれはCIRの問題ではなく、任用団体が考えるべき問題です。コロナ禍ということもありましたが、CIRに出勤してもらってもお願いできる仕事なかった時期があります。また、ここまで書いてきましたが、「秋田県だからこそその業務」というものは無いように感じます。せっかく日本に、しかも秋田に来てもらったのですから、秋田県の特徴を活かした業務を今後はお願いしたいと思っています。

任用したCIRが将来国内外で別の業務についたとしても、「秋田で過ごした時間は輝いていた」と思ってもらえるよう、任用団体としてサポートをしていきたいと思えます。ここまでお読みいただきありがとうございます。へば！（秋田弁で「さようなら」）